

ISO/PC 283 (労働安全衛生マネジメントシステム)

第2回会議 (カサブランカ (モロッコ)、2014年3月31日～4月4日)

コミュニケ

ISO/PC/283 は、モロッコのカサブランカにある Golden Tulip Farah ホテルにおいて第2回会議を開催した。モロッコ標準化機構 (IMANOR) の事務局長である Abderrahim Taibi 博士によって開会が宣言された後、会議の主要スポンサーであるモロッコの National Institute of Working Life Conditions and Work (INCVT) の Abdeljalil El Kholti 教授から短い歓迎の挨拶があった。

PC は、2013年10月の初回会議で適用範囲を見直し、その範囲を広げて、OH&S マネジメントシステムの「要求事項」に加えて「利用の手引」の策定も含めることを提案した。この提案は、ISO/技術管理評議会 (ISO/TMB) に提出され、決議 4/2014 により合意された。

PC はさらに、ISO 45001 「労働衛生安全マネジメントシステム—要求事項と利用の手引」を策定するための WG1 を設置し、この WG は、10月の会議のアウトプットを編集した後、12月に作業原案をメンバーに公開した。

作業原案 (WD) には、約 1,300 件にのぼるコメントが寄せられ、約 230 ページにも及んだ。これらのコメントの処理と WD を委員会原案としてまとめる作業は、第2回会議の主な目的として設定された。

第2回会議に出席した代表者たち

第2回会議のオープニング総会で、PC のメンバー数が、P メンバー45、O メンバー15、リエゾン組織 12 に増加したことが留意された (この会議期間中、オーストラリアも P メンバーとして参加した)。同様に、WG1 のメンバー数も 83 に達した (代理エキスパートを含む)。第2回会議に出席した代表者 85 名のうち 33 名は初めての参加で、最新の作業状況を知らされたとはいえ、既存のメンバーの寛容な態度を必要とした。

事務局は、「労働衛生安全 (OH&S)」と「労働安全衛生 (OSH)」のどちらのラベルを採用するかという問題が初回会議で決議されていないこと、また WD に対するコメントでも問題として提起されていることを明らかにした。その結果、PC の全てのメンバーにこの決定に参加する機会を与えるために、本件を投票に付すこととなった。投票は、その結果を考

慮して今会議のアウトプットを編集するのに間に合うように、5月初めに締め切られる。

事務局はまた、まもなく改訂される ISO/IEC 専門業務用指針の第 1 部及び統合版 ISO 補足指針（2014 年 5 月 1 日に発行予定で、ISO/TMB では既に承認済み）の改訂箇所をいくつか紹介した。例えば、委員会原案（CD）投票期間の初期既定値が 2 ヶ月に短縮されること、国際規格原案（DIS）が承認された場合、最終国際規格案は任意になることなどがある。さらに、委員会の作業が遅れる場合、今後、延長願いは 1 回だけとし、かつ延長期間は 9 ヶ月までとなる。

事務局は、多数の他の ISO マネジメントシステム分野と一致させるために、ISO/IEC 17021 の新しいパートとして、OH&S MS 監査資格要求事項の策定を開始することを求める勧告を多数受け取ったことを報告した。事務局は、これは次回会合後まで延期すべきであるという見解を示し、その見解で合意に達した。

オープニング総会での WG1 からの報告では、WD について受け取ったコメントの分析が発表された。この分析は、コメントの約 1/4 が「リスク」（附属書 SL の上位構造の箇条 6.1 における「リスク」そのものの定義とリスクに取り組む方法の両方）に関するものであることを示していた。WG1 はまた、WG のその週の作業計画を発表すると共に、引き続きタスクグループ（TG）に分かれて規格の様々なセクションに取り組む予定であることを伝えた。

PC は、オープニング総会后に、多数のトピックについて検討するため、また参加者全員が議論に貢献できるようにするために、「オープンフォーラム」を開催した。

オープンフォーラムのトピックとしては、規格の適用範囲と目的、規格の法的適用性、「利用の手引」を策定するための PC のアプローチ、「リスク」を取り巻く問題、「労働者」や「職場」などの多数の重要な用語を取り巻く問題、オランダとフランスによる「パフォーマンス指標」に関するガイダンスの必要性についてのプレゼンテーション、スウェーデンによる同一トピックに関する口頭報告などがあった。

オープンフォーラム後、WG1 は、5 つのタスクグループに分割する前に、WG1 自体のオープニング総会を開催し、コメントの検討を開始した。TG は、WG が各 TG から進捗状況に関する報告を受け取るために中間の総会を再招集する前の 2 日間、それぞれが担当するセクションに取り組んだ。さらに、総会では、規格の適用範囲を改訂するための規格文言案が発表され、その改善案が多数寄せられた。この後、TG はそれぞれの活動に戻り、最終日の午後に最後の WG 総会が開催された。

最終日の WG 総会では、5つの TG のうち作業を完了できたのは1つだけで、残りのうち2つは間もなく完了するが、他の2つは会議後も作業を継続する必要があることが留意された。

作業を進める最善策について、多数の案が提起された。例えば、委員会原案 (CD) 段階に進まずに作業原案 (WD) の第2版に進むことが提案された。また、人為的な期限を守るよりも質の高い原案を策定する方が望ましいという意見や、プロジェクトの9ヶ月延長を適用するのが望ましいという意見も出された。

これらの問題に関する議論は、会議に割り当てられた時間を大幅に超過し、1時間半以上にも及んだ。最終的に、各 TG は、それぞれが担当するセクションのガイドラインの策定を含めて、作業を2014年7月1日までに完了することで合意に達した。その後、テキストは、TG リーダーの支援を受けてコンビナーが編集し、原案として完成される。委員会原案 (CD) として進めるのに適切であるかどうかについて「yes/no」で回答する簡易投票を行うために、編集された原案は、WG1 のメンバーに回覧される。投票の結果、「yes」に決定した場合、CD は8月1日までにメンバー団体に回覧される。結果が「no」の場合は、CD の準備を完了するために、WG 会議に認められている最短期間内 (6週間以内) に WG1 の会議があらためて招集される。

投票結果により「yes」に決定した場合でも、PC の次回会議を早くても11月まで延期する必要があることが留意された。これにより、DIS 段階の原案作成にかけられる期間が短くなり、2015年4月に DIS を配布するために、要求されている18ヶ月という期限 (ISO で合意された開発期限3年に基づく) を守るよう WG と PC に圧力がかった。

次の PC 283 クロージング総会で、CD が提出されたら投票のために (及びコメントを募るために) 回覧することで合意に達した。さらに、CD の主な改訂箇所、及び OHS と OSH に関する投票結果を考慮して設計仕様を更新する必要もある。

事務局は、主催者候補と暫定的な話し合いを行っているが、今後の会議についてはまだ確定したホストの申し込みはないことを報告した。

要約すると、PC とその WG1 は、この規格策定段階で解決に努めなければならない非常に難しい問題をいくつか抱えており、そのために多少の遅延が生じている。これらの主要な問題に今すぐ取り組むことにより、今後の進展を加速化できることが期待される。